

授業コード	科目名	リプロダクティブヘルス支援			担当教員	島田友子、小柳弘恵 柘植あずみ、山内優子、松島紀子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 405	月 16:30 - 17:30 水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>社会的な成熟や文化的背景は女性の健康と権利の保障に深く関わっている。我が国において女性の人権が守られるようになった過程を歴史的背景と併せて学習し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、女性やパートナー、家族のライフステージに対応した性と生殖に関連した健康支援の実際を学習する。</p> <p>リプロダクティブ・ヘルスケアの提供に必要な知識を、女性のライフサイクル各期を通じた健康問題について学習し、そのアプローチ法を習得する。また、受胎調節実施指導員として必要なセクシュアリティ支援の知識・方法を学習する。さらに、現代社会の多様化する性と生殖の健康・権利を支援する専門職者として、倫理観・助産観を深め、対象者への支援のありかたおよび助産師としての役割について考える。</p>						
1. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて説明できる。</li> <li>2. 女性のライフサイクル各期についての健康問題とヘルスケアの特徴について理解することができる。</li> <li>3. 家族計画について説明できる。</li> <li>4. 受胎調節および受胎調節に関する法規を説明できる。</li> <li>5. 受胎調節についての指導を演習において実施できる。</li> <li>6. 不妊症の基礎的知識について説明できる。</li> <li>7. 女性を取り巻く社会的背景、社会問題および女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康課題について理解し、助産師の果たす役割について自己の考えを述べられる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1 回 リプロダクティブ・ヘルスおよび家族計画の概念、昨今のリプロダクティブ・ヘルスに関する問題 世界および我が国の人口問題 (小柳)</p> <p>第 2 - 4 回 医療技術の開発/応用についてのジェンダー分析:「遺伝子・卵子・胎児への視線から」(柘植) 医療と女性の人権 「妊娠と出生前検査の経験から」 再生医療研究や生殖技術に関する国際比較研究(柘植) 中絶と女性の権利 (柘植)</p> <p>第 5 - 8 回 子どもの発達支援・愛着形成、虐待 (山内) 沖縄の子どもの貧困の現状と課題 (山内)</p> <p>第 9 回 ライフサイクル各期にある女性の健康支援、人工妊娠中絶を受ける女性のケア (小柳)</p> <p>第 10 回 生殖医療の基礎知識 子宮内膜症、子宮腺筋症など、治療としての漢方など セクシュアリティ支援に必要な知識、方法 家族計画と法整備 (島田)</p> <p>第 11 回 カウンセリングとケアの基礎 「不妊カウンセリングの基礎」 家族をつくるとは、助産師の役割 (島田)</p> <p>第 12 回 支援職自身が自分自身と向き合う、そしてそのケア(松島)</p> <p>第 13 回 生殖に関連した健康問題を抱える女性の心理・社会的問題 (松島) 生殖補助技術を受ける女性の心理や現在の制度、社会問題など</p> <p>第 14 回 女性相談の現場からみる外国人女性と様々な問題 (松島)</p> <p>第 15 回 DV 被害を受けた女性保護と人生の再出発への支援 (松島)</p>						

まとめ ディスカッション(島田)	
4. テキスト・参考文献	
北村 邦夫「受胎調節指導用テキスト(リズムダイヤル付き)」日本家族計画協会、2016	
プリンシプル産婦人科学 婦人科編	標準産婦人科学
産婦人科診療ガイドライン 産婦人科外来編	病気が見える9 婦人科
臨床助産師必携 助産師業務ガイドライン	
親学のすすめ続・親学のすすめ 児童・思春期の心の教育	
思春期の性教育 ~ 小学校高学年から高校まで ~ 他	
5. 準備学習	
事前学習を行い参加すること。	
6. 成績評価の方法	
課題レポート(50%) 筆記試験(50%) 合計 100点	
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
この科目は、受胎調節実施指導員認定講習の一部である。	
オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。	

授業コード	科目名	妊娠期の助産診断・技術学			担当教員	鶴巻陽子、運天啓一
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研2		
1. 授業の概要						
<p>妊娠期における助産の実践に必要な基本的知識・技術を修得する。妊娠に伴う日常生活の変化を理解し、経過を予測し、正常からの逸脱を防ぐための助産ケアについて学ぶ。妊娠経過が正常に移行するように支援するための妊婦の妊娠経過や健康生活、および心理・社会的生活の診断における基礎的な助産診断力、助産実践力、臨床的態度を修得する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断に必要な基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 助産技術の提供に必要な基本的姿勢を身につける。</li> <li>3. 妊娠期の健康生活を維持し、セルフケア能力を高めるケアについて学ぶ。</li> <li>4. 妊婦及び家族に対して診断に基づいた支援について学修する。</li> <li>5. ハイリスク・異常妊婦へのケアについて学ぶ。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 授業概要 学修の進め方  妊娠の生理 ①妊娠による母体の変化 ②胎児の成長と発達</p> <p>第2回～第5回 妊娠期に必要な助産診断  ①妊娠経過の診断 ②胎児の発達・健康状態の診断 ③妊婦の健康生活の診断 ④妊婦の心理社会的側面の診断  妊娠期に必要な助産診断 講義・グループワーク  ①妊婦への支援 マイナートラブルと妊娠各期の保健指導（日常生活適応へのケア）  初期・中期・後期グループワーク ②グループワーク発表</p> <p>第6回 ハイリスク妊婦へのケア</p> <p>第7回～10回 妊娠期のフィジカルイグザミネーション  ①問診  ②身体計測：骨盤計測・腹部計測、レオポルド触診法、骨盤周辺の形態機能の特徴  正しい姿勢と骨盤ケア  ③胎児の評価・胎児環境の評価：胎児心拍聴取（トラウベ・ドプラー・胎児心拍モニタリング・分娩監視装置の装着と判断）  ④胎児の発育状態の評価：超音波検査学内演習</p> <p>第11回～14回 外来診察の基礎 超音波検査の実際【運天産婦人科】  レポート提出A4 1枚</p> <p>第15回 全体まとめ、演習のまとめ</p>						

4. テキスト・参考文献
<p>我部山キヨ子他編、助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [ I ] 妊娠期、医学書院</p> <p>日本助産診断・実践研究会編、マタニティ診断ガイドブック第4版、医学書院</p> <p>我部山キヨ子・大石時子編、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院</p> <p>平澤美恵子監修、写真でわかる助産技術、インターメディカ、2015</p> <p>進純朗、助産外来の健診技術 根拠にもとづく診察とセルフケア指導、医学書院</p> <p>医学情報科学研究所編・病気が見える VOL. 10 第3版、メディックメディア</p> <p>荒木勤著・最新産科科学正常編、文光堂</p> <p>藤森敬也、胎児心拍数モニタリング講座、MC メディカ出版、2010</p> <p>エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌</p> <p>厚生労働科学研究 妊娠出産のためのガイドライン、科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン、金原出版、2014</p> <p>金井雄二、これから始める！周産期超音波の見かた、MC メディカ出版、2016</p> <p>今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践課程 第3版 南山堂</p> <p>助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版社</p> <p>助産学講座5 助産診断. 技術学Ⅱ [2] 妊娠期第5版 医学書院</p>
5. 準備学習
<p>毎回の授業内容を予習・復習、専門用語の意味を理解し質問事項を整理しておくこと。</p> <p>課題に対しても積極的に自己学習し、グループ討議に参加できるように準備しておくこと。</p>
6. 成績評価の方法
<p>課題発表と授業に取り組む積極性 (50%)、定期本試験 (50%)</p> <p>正当な理由のない欠席・遅刻は以下の通り減点とする。</p> <p>欠席1回につき2点減点。遅刻1回につき1点減点。</p>
7. 履修の条件
<p>特になし</p>
8. その他
<p>特になし</p>

授業コード	科目名	分娩期の助産診断・技術学			担当教員	鶴巻 陽子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研2		
1. 授業の概要						
<p>分娩期における助産の実践に必要な基本的知識・技術を修得する。分娩期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、女性の主体性を尊重した安全で質の高い助産実践について学修する。分娩介助の意義・原理について学び、分娩介助技術の基本的知識を修得する。分娩経過中の異常や緊急時の助産師の役割について理解を深める。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期の助産診断が的確にでき、産婦および家族、胎児にとって安心・安全・快適なお産ができるよう支援するための基本理論と知識を学ぶ。</li> <li>2. 産婦の入院から分娩第4期までの助産師の役割を理解し、診断技術と分娩経過に必要なアセスメント視点を学ぶ。</li> <li>3. 産婦の主体性を引き出すケアのためのリラクゼーションや産通緩和の方法を学ぶ。</li> <li>4. 分娩経過中の異常や緊急時の予測と対応、産科手術、産科的医療処置について学ぶ。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 授業概要 学修の進め方 分娩期の対象理解と助産師の役割</p> <p>第2回～第4回 分娩の生理 ①分娩3要素②分娩の機序 ③分娩が母体・胎児に及ぼす影響 ④分娩期の心理社会的変化：産婦の心理と家族関係の特徴 産婦の健康生活</p> <p>第5回～第7回 分娩期の助産診断 ①分娩期の助産診断の特徴と診断類型：分娩期の助産診断の視点、特徴 フリードマン曲線と分娩予測 パルトグラムの記載 ②分娩期のフィジカルアセスメント：産婦の健康診査に必要な技術 分娩開始の診断 分娩期の経過診断 胎児の位置の診断 分娩進行状態の診断 母体・胎児の健康状態のアセスメント 胎児付属物のアセスメント</p> <p>第8回～第9回 分娩介助技術 ①分娩介助の目的 ②正常分娩介助法の原理と実際 アクティブバース・フリースタイル分娩 ③分娩介助技術とEBM</p> <p>第10回 付属物の検査と計測</p> <p>第11回 出生直後の新生児のアセスメントとケア：アプガースコアの判定・成熟度の判定</p> <p>第12回 産婦の支援 ①産婦の支援の基本：産痛のメカニズムと産通緩和 ②分娩経過に沿ったケア</p> <p>第13回～14回 分娩期のハイリスク・異常とその支援 ハイリスク・異常因子のアセスメント ハイリスク異常産婦への支援</p> <p>第15回 全体まとめ</p>						

4. テキスト・参考文献
<p>我部山キヨ子編, 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ, 医学書院, 2016</p> <p>青木康子編, 実践マタニティー診断第3版, 医学書院, 2014</p> <p>医療情報科学研究所編, 病気がみえる産科第3版, MEDIC MEDIA, 2013</p> <p>日本産科婦人科学会編, 産婦人科診療ガイドライン産科編, 杏林舎, 2017</p> <p>エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌</p> <p>厚生労働科学研究 妊娠出産のためのガイドライン, 科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン, 金原出版, 2014</p> <p>武谷雄二, プリンシプル産科婦人科学2 第3版, メディカルビュー2014</p> <p>北川真理子編, 今日の助産改訂第3版, 南江堂, 2013</p> <p>「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」我部山キヨ子他編、医学書院 2016</p> <p>岩田塔子, 体位別フリースタイル分娩介助法, メディカ出版, 2007</p> <p>竹田省, 高橋真理編, CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法, メディカルビュー2016</p> <p>進純朗, 分娩介助学 第2版, 医学書院, 2016</p>
5. 準備学習
<p>十分な予習と復習を行うこと。</p>
6. 成績評価の方法
<p>筆記試験 (80%) 授業に取り組む積極性 (20%) 合計 100%</p>
7. 履修の条件
<p>特になし</p>
8. その他
<p>分娩期助産演習に継続させて、学びを深めること。</p>

## 13. 産褥期・新生児・育児期の助産診断・技術学

授業コード	科目名	産褥期・新生児・育児期の助産診断・技術学			担当教員	小柳弘恵 鈴木啓子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	研究室 19		
1. 授業の概要						
産褥期・新生児期における助産の実践に必要な基本的知識・技術を修得する。胎外生活適応に伴う新生児の適応生理について理解し、経過を予測し正常からの逸脱を防ぐための助産実践について学修する。現代の出産・育児期に関する諸問題をふまえ、母子とその家族が新たな家族を形成していく過程で、育児技術の習得、親性の獲得、夫婦関係・親子関係・きょうだい関係等、家族の再構築に向けた支援に必要な基礎的知識と技術を修得する。						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>産褥期・新生児期の正常な生理的变化を理解し、経過判断に必要なアセスメント視点を学ぶ。</li> <li>出生後早期の胎外生活適応のプロセスを理解し、正常からの逸脱を防ぐための予防的ケアについて理解する。</li> <li>産褥期にある女性の身体的、精神・心理的、社会的問題について理解する。</li> <li>母子の愛着形成、母乳育児支援など、産褥・新生児期に必要な援助技術を習得する。</li> <li>周産期におけるハイリスク及び正常から逸脱した褥婦・新生児に対する支援について理解する。</li> <li>NICUにおける児と家族へのケア、Family Centered Care (FCC) の概念について理解する。</li> <li>新生児救急蘇生法 (NCP) に基いた知識と技術が修得できる。</li> <li>母子とその家族をめぐる家族関係の発達理論について理解する。</li> <li>母子とその家族の関係性の構築および親役割獲得における助産師の役割について考察する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
第1回	コースガイダンス 母性看護学の想起、母性看護と助産の違い					
第2・3回	産褥期の助産診断とケア①：産褥期の正常経過および正常からの逸脱とケア (褥婦の身体的、精神・心理的、社会的変化、母乳の基礎知識)					
第4回	新生児期の助産診断とケア①：新生児期の特徴、新生児の発達課題、新生児ケアの基本					
第5・6回	産褥期の助産診断とケア② [各論]：褥婦のフィジカルアセスメント、生活行動のアセスメント					
第7・8回	新生児期の助産診断とケア②③ [各論]：新生児期の正常経過および正常からの逸脱とケア (新生児の生理的变化、新生児のフィジカルアセスメント)					
第9回	産褥・新生児期の助産技術演習：褥婦と新生児のフィジカルアセスメント技法 (褥婦の観察、新生児の観察)					
第10・11回	母乳育児支援：アセスメントと支援方法 (ポジショニング・ラッチオン)					
第12・13回	家族のアセスメント：母子関係、父子関係 乳児、幼児、思春期の母子関係 【鈴木】					
第14回	産褥・新生児期における近年のトピックスと助産師の役割					
第15・16回	周産期のメンタルヘルス 【宮】					
第17・18回	家族の発達課題を支える助産ケア					
第19回	中間評価					
第20・21回	ハイリスク新生児の特殊性とケア：ハイリスク新生児の出生と母体の妊娠・分娩経過の関連 (ハイリスク因子と経過予測、生後日齢および発育・発達と修正週数、ディベロップメンタルケア) 満期新生児に対するケアとの相違性					
第22回	Family Centered Care (FCC)：FCC概念、家族関係(父子・きょうだい)の構築と支援					

第 23・24 回	子をなくす親へのケア（ペリネイタルロス）とケアの実際（母乳育児、障害を持つ子どもの育児
第 25 回	NICU のケアに関する演習 : 保育器の取り扱い方、保育器内での清潔ケア・授乳 ディベロップメンタルケア(ポジショニング・ネスティング 他)
第 26～29 回	新生児蘇生法 (NCPR A コース) 講習会
第 30 回	まとめ 筆記試験
4. テキスト・参考文献	
<p>我部山キヨ子・毛利多恵子編 (2016). 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 医学書院,</p> <p>横尾京子編 (2016). 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期, 医学書院, 東京.</p> <p>河井昌彦 (2014). 新生児医学 金芳堂</p> <p>プリンシプル産婦人科学.</p> <p>細野茂春監修 (2015). 日本救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト, メジカルビュー社, 東京.</p> <p>病気がみえる Vol10 産科第 2 版, メディックメディア.</p>	
5. 準備学習	
<p>コースガイダンス時に資料を配布するので、確認しておくこと。</p> <p>授業の計画と内容に沿って、予習しておくこと。</p>	
6. 成績評価の方法	
筆記試験 (80%) 課題への取り組み (20%) 合計 100%	
7. 履修の条件	
8. その他	
新生児蘇生法 新生児蘇生法「専門」コース (A コース) (公認講習会による認定取得)	



## リプロダクティブヘルス

第1回：リプロダクティブヘルスおよび家族計画の概念、昨今のリプロダクティブヘルスに関する問題

世界および我が国の人口問題

第2回：受胎調節の歴史・変遷、ファミリープランの概念、人工妊娠中絶を受ける女性のケア

第3回：ライフサイクル各期にある女性の健康支援

もし可能であれば、3回に分けて担当させていただけると幸いです。

1回目は、外部講師の講義の始まる前というより、もっと早く、助産概論や妊娠期の助産診断が何回かされたくらいがちょうどよいと考えます。

次は、柘植先生の中絶と女性の権利の前後、島田先生の家族計画の実際に関する講義の前に入ると理想的です。

3つめは、後期になってからでも構いませんが、できれば模試に間に合う方がよいかと思います。担当させていただけるコマが2回であれば、「受胎調節の歴史・変遷」を1回目にし、「人工妊娠中絶を受ける女性のケア」は「ライフサイクル各期にある女性の健康支援」と一緒にしたいです。ご検討くださいませ。

## 母子の栄養

大城洋子先生の部分に以下を追加してください。

- ◆ 母乳育児に関する基本的知識〔概論〕: WHO 国際基準、母乳育児成功のための10か条、BFHI
- ◆ 母乳育児に関する基本的知識〔各論〕: 乳房の解剖生理、母乳の分泌機序、新生児の哺乳行動
- ◆ 支援の時期と内容、乳房トラブルと対処法、人工乳の医学的適応

産褥新生児の科目で第10・11回で母乳育児支援についてしますので、

できれば、その前に大城先生の授業が行われるように、時間割および日程調整をしていただくと学生のより良い学修になるかと思えます。 よろしく願いいたします。

## 10. 助産過程の展開

授業コード	科目名	助産過程の展開			担当教員	小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	19		
1. 授業の概要						
この科目では、妊娠、出産、産褥の過程において、助産過程（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価）の展開方法を学ぶ。助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解し、対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断の原理・原則および助産過程の展開方法を理解する。</li> <li>2. 経過を予測し、妊産褥婦・新生児の状態を適切にアセスメントできる。</li> <li>3. 対象の身体的・心理的・社会的側面をケアに反映させていく過程がわかる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
第 1 週 助産過程とは（看護過程との相違）、助産過程の展開方法（PDCA サイクル）						
第 2 週 妊娠期のアセスメントと助産診断						
第 3 週 妊娠期の助産過程（ペーパーペーシェントで展開）						
第 4 週 “（” 共有と振り返り）						
第 5 週 分娩期のアセスメントと助産診断						
第 6 週 分娩期の助産過程（ペーパーペーシェントで展開）						
第 7 週 “（” 共有と振り返り）						
第 8 週 助産過程の連続性と個別性						
第 9 週 産褥期のアセスメントと助産診断						
第 10 週 産褥・新生児期の助産過程（ペーパーペーシェントで展開）						
第 11 週 “（” 共有と振り返り）						
第 12 週 退院後の母子（育児期／家庭訪問）の助産過程						
第 13 週 NICU に入院した児のアセスメントと助産診断						
第 14 週 NICU に入院した児の助産過程（ペーパーペーシェントで展開）						
第 15 週 まとめ						
4. テキスト・参考文献						
マタニティ診断ガイドブック第4版 日本助産診断・実践研究会編著，医学書院，2016						
助産学講座，助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ 医学書院，2017						
助産師基礎教育テキスト第4巻～第7巻．日本看護協会出版会，2017						
実践 マタニティ診断．日本助産診断・実践研究会編著，医学書院，2016						
5. 準備学習						
看護基礎教育（母性看護）における看護過程の展開を復習しておくこと。						
6. 成績評価の方法						

授業参加度・課題への取り組み 50% 最終課題（提出物）の成果 50% 合計 100%

7. 履修の条件

8. その他

ペーパーペーシェントについて、連続して助産過程を展開します。事前準備をベースに授業が進行しますので、主体的に取り組む、事前課題の提出期限を守って授業に臨むこと。

授業コード	科目名	健康教育技法			担当教員
					島田友子、鶴巻陽子、小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
1	1	通年	6	看研 8・2・19	
1. 授業の概要					
<p>この科目では、女性とその家族が、その人らしくより良く健康に生活していくための健康教育について学習する。相談・教育・援助活動の基本を理解し、実際に通じ小集団指導の技法を修得する。</p> <p>前半はカウンセリング技法を含めた相談・教育・援助活動の基本的知識およびコミュニケーションについての理解を深める。後半は、出産前教育（MC/PC）、育児学級、出張思春期教育のうちから1つを選択し、実際に健康教育の企画・運営を行う。</p>					
2. 到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談・教育・援助活動の基本について理解する。</li> <li>2. 健康教育の企画・運営を通じ、小集団指導の実際を学び、健康教育に必要な知識・技術の理解を深める。</li> <li>3. 助産師に必要なコミュニケーションスキルが活用できる。</li> <li>4. 地域の特徴を把握し、地域における人々の生活をイメージしながら、健康教室を企画、実施する。</li> </ol>					
3. 授業計画と内容					
<p>第1週 健康教育とは（個別指導・集団指導の特徴、ねらい）</p> <p>第2週 相談・教育・援助活動の基本、</p> <p>第3週 妊娠期、育児期、思春期の健康課題と集団教育の目的、女性のライフサイクル各期の健康教育</p> <p>第4週 " コミュニケーション・カウンセリング技法</p> <p>第5週 コミュニケーションスキル セラピューテックコミュニケーション，意思決定支援，アサーティブネス演習</p> <p>第6週 集団の健康教育の指導法（指導案作成のプロセス）</p> <p>第7週 コース選択、教材研究</p> <p>第8週 指導案作成</p> <p>第9週 "</p> <p>第10週 媒体作り・リハーサル準備</p> <p>第11週 リハーサル</p> <p>第12週 振り返り、指導案修正</p> <p>第13週 健康教育準備</p> <p>第14週 健康教育の実施</p> <p>第15週 まとめ</p>					
<p>【健康教育選択コース】</p> <p>妊娠期：出産前教育としての母親学級または両親学級を企画・運営する。</p> <p>育児期：生後半年以内の乳児を育児中の母親を対象に、育児クラスを企画・運営する。</p> <p>思春期：北部の小中学校と連携し、出思春期教育を企画・運営する。</p> <p>青年・成人期：北部の高校大学と連携し、子宮がん予防教育を企画・運営する。</p> <p>青年・成人期：北部の高校大学と連携し、乳がん予防教育を企画・運営する。</p> <p>更年期：更年期を過ごす女性を対象に、健康教育を企画・運営する。</p>					
4. テキスト・参考文献					
<p>特定の教科書は使用しない。</p> <p>参考図書：『マタニティサイクルの実践保健指導・産褥期』鈴木由美著 丸善プラネット 2013年</p>					
5. 準備学習					
講義（健康教育コース）に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。					
6. 成績評価の方法					
1. 試験 50点 課題（健康教育）への取り組み 50点 合計 100点					
7. 履修の条件 : 特になし					

8 . その他

コースに分かれ、実施にそなえた指導案、発表原稿、使用媒体の作成や、練習が必要となる。

授業コード	科目名	分娩期助産演習			担当教員	鶴巻陽子、小柳弘恵、 島田友子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研 8・2・19		
1. 授業の概要						
<p>正常な分娩経過を理解し、助産に必要な知識と技術・態度を修得し、助産を実践できる能力を養う。母子の安全が確保され、産婦が安心して出産に臨めるように分娩経過に沿って一連の分娩介助技術を習得、習熟する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩介助に必要な助産技術の提供のための基本的知識・技術を理解する。</li> <li>2. 産婦が安全・安楽で主体的に出産が出来るための助産ケアの方法を学ぶ。</li> <li>3. グループで協力して課題に取り組み、知識、記述を習得する。</li> <li>4. 会陰切開と縫合について適切な実施時期と方法、および基本的スキルを習得する。</li> <li>5. 助産実践に必要な分娩介助技術を習得する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 授業概要 学修の進め方 「分娩介助手順書」配布  基本的技術の復習：清潔・手洗い・ガウンテクニック・導尿、技術チェック  分娩介助デモスト</p> <p>第2回・第3回 分娩介助法（1）  ①分娩介助の意義 ②正常分娩介助法の原理 ③分娩体位  ④分娩時の準備：産婦、分娩体位、導尿、⑤内診</p> <p>第4回 分娩介助法（2）  ①分娩準備から分娩終了までの分娩介助時の技術  器具・機材の配置、手指消毒、外陰部洗浄、呼吸法、努責と怒責について  肛門・会陰保護、児頭娩出、体幹娩出、胎盤娩出、分娩後の観察</p> <p>第5回・第6回 正常分娩介助時の技術（1）  ファントームを用いて正常分娩介助に基づく介助技術の習得  —分娩準備から外陰部洗浄まで—</p> <p>第7回・第8回 正常分娩介助時の技術（2）  ファントームを用いて正常分娩介助に基づく介助技術の習得  —児娩出から胎盤娩出まで—</p> <p>第9回 正常分娩介助時の技術（3）  ファントームを用いて正常分娩介助に基づく介助技術の習得  —児娩出から胎盤娩出まで—</p> <p>第11回 正常分娩介助時の技術（4）  —流水を用いての人工破膜、導尿、—</p> <p>第12回・13回 正常分娩介助時の技術（5）フリースタイル分娩</p> <p>第14回・15回 分娩準備から分娩終了まで・会陰縫合術</p>						
4. テキスト・参考文献						

<p>我部山キヨ子編, 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ, 医学書院, 2016</p> <p>青木康子編, 実践マタニティー診断第 3 版, 医学書院, 2014</p> <p>医療情報科学研究所編, 病気がみえる産科第 3 版, MEDIC MEDIA, 2013</p> <p>武谷雄二, プリンシプル産科婦人科学 2 第 3 版, メディカルビュー2014</p> <p>岩田塔子, 体位別フリースタイル分娩介助法, メディカ出版, 2007</p> <p>竹田省, 高橋眞理編, CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法, メディカルビュー2016</p> <p>村上明美, DVD で学ぶ仰臥位分娩介助技術 熟練の技を求めて, 医歯薬出版株式会社, 2015</p> <p>岩田塔子, 体位別フリースタイル分娩介助法, メディカ出版, 2007</p> <p>進純朗, 分娩介助学 第 2 版, 医学書院, 2016</p> <p>平澤美恵子他, 写真でわかる助産技術、インターメディカ、2015</p> <p>矢島床子, フィーリングバース心と体で感じるお産, 自然食通信社, 2011</p>
5. 準備学習
<p>妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の助産診断・技術学の予習復習をして授業に臨むこと。</p>
6. 成績評価の方法
<p>技術試験 (100%)      合計 100%</p>
7. 履修の条件
<p>特になし</p>
8. その他
<p>特に、助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに継続する科目である。主体的に臨むこと。</p>

授業コード	科目名	母子の栄養・薬理学			担当教員	中村克徳、潮平英郎 伊差川サヤカ、藤本孝子 大城洋子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	非常勤講師控室		
1. 授業の概要						
<p>栄養学の基礎と薬理学の基礎を踏まえて、母乳栄養についての能力を育み母乳育児支援専門職として活躍する力を修得する。栄養については、母性のライフステージ、及びマタニティサイクルにおける栄養について理解し各期の食生活について、より具体的な指導のための技術と知識を修得する。薬理については、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解する。さらに思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される薬について理解する。また、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習する。母乳育児については、どのような支援が必要かについて、エビデンスに基づいた根拠と母乳育児を成功させるための方法・技術を習得し、実践に繋げることができるための技術と知識を修得する。それらを基に母乳哺育を成功させるための支援の仕方を考える。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本人の食生活の現状と動向について説明できる。</li> <li>2. 日本人の食事摂取基準を理解する。</li> <li>3. 妊娠による母体の変化と胎児の成長に伴う栄養、食生活の留意点を理解する。</li> <li>4. 妊産婦、乳幼児の栄養と食生活を理解する。</li> <li>5. 母の栄養や嗜好品と母乳との関係など、母乳および授乳について母児双方の側面から理解する。</li> <li>6. 栄養指導に必要な基礎知識を理解できる。</li> <li>7. 薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を理解できる。</li> <li>8. 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。</li> <li>9. 妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深め、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて考えることができる。</li> <li>10. 母乳分泌の生理学的なメカニズム、母乳の成分、母乳哺育の母子相互作用など、母乳および授乳について母児双方の側面から理解する。</li> <li>11. 母乳哺育を成功させるための支援の方法を考えることができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 ガイダンス、婦人科領域で使用する薬・健康食品・受胎調節実地指導に関する薬事法：(低用量ピル・更年期障害など)健康食品について (中村)</p> <p>第2回 妊娠中の薬物療法 妊婦に頻用される薬剤 (伊差川)</p> <p>第3回 日本人の食生活の現状と動向 (藤本) 健康づくり事業の背景と施策 (健康日本 21) 我が国の栄養・食生活の現状、食生活をとりまく諸問題を考える。食生活指針、栄養表示基準制度</p> <p>第4回 授乳中の薬物療法 授乳婦に頻用される薬剤 母乳と薬 (伊差川)</p> <p>第5回 栄養指導に必要な基礎知識を学ぶ。(藤本) 母子栄養の意義、指導目的、母子に関する栄養行政について 栄養素とその働き 栄養指導における原則と方法</p>						



第6回	薬理学総論（作用機序・薬物動態等）（潮平）
第7回	新生児と薬理 母乳育児とアレルギー、母乳育児と感染症（潮平）
第8回	妊産婦の栄養（藤本） 妊娠時 授乳期 肥満 妊娠糖尿病 妊娠高血圧症候群 妊娠性貧血 便秘
第9, 10回	乳児の栄養（母乳・人工栄養、離乳食）（藤本） 乳・幼児期の栄養 調乳法と離乳（各期） 幼児食 幼児期の栄養と食事
第11回	母乳育児に関する基本的知識〔概論〕: WHO 国際基準、母乳育児成功のための10か条、BFHI（大城）
第12-13回	母乳育児に関する基本的知識〔各論〕: 乳房の解剖生理、母乳の分泌機序、新生児の哺乳行動（大城）
第14-15回	支援の時期と内容、乳房トラブルと対処法、人工乳の医学的適応（大城）
4. テキスト・参考文献	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学、第5版、医学書院、2016.</li> <li>・香川芳子監修：七訂増補食品成分表、女子栄養大学出版部、2016.</li> <li>・厚生統計協会編：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2014/2015 年度、財団法人厚生統計協会、2014.</li> <li>・国立健康・栄養情報研究会編：厚生労働省 国民健康・栄養調査報告(平成18年)、第一出版、2008.</li> <li>・平山宗宏監：母子健康・栄養ハンドブック、医歯薬出版、2010.</li> <li>・日本人の食事摂取基準 2015年版. 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書、第一出版、2015.</li> <li>・柳澤正義監修：授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き、母子保健、2008.</li> <li>・吉岡充弘、泉剛・井関健：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学、医学書院、2016</li> <li>・日本助産師会（2015）. 乳腺炎：母乳育児支援業務基準，日本助産師会出版，東京．</li> <li>・仁志田博司（2010）. 改訂第2版産科スタッフの為に新生児学-出生から退院までの医療とリスク管理，メディカ出版．</li> <li>・国際連合児童基金：世界保健機関（2009）. UNICEF / WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド：「母乳育児成功のための10か条」の実践．ベーシック・コース，医学書院．</li> <li>・伊藤真也（編集），村島温子（編集）：薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳、2014．</li> <li>・林 昌洋（監修），石川 洋一（編集）：妊娠・授乳とくすり Q&amp;A 安全・適正な薬物治療のために 今これだけは知っておきたい!、2013．</li> </ul> <p>この他の参考図書は，随時紹介する</p>	
5. 準備学習	
事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。 事後学習：配布資料を復習する。また、場合によってはレポートを課す。	
6. 成績評価の方法	
レポート(20点) 筆記試験(80点) 合計100点	
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。	

授業コード	科目名	やんばるの母子保健			担当教員	島田友子、田場真由美、比嘉憲枝
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研 405	月曜、火曜 1,2 限	
1. 授業の概要						
<p>沖縄北部地域「やんばる」の母子を取り巻く地域社会の変化と特徴，母子とその家族が持つ母子保健上の諸問題を踏まえ，地域住民の多様なニーズに応じた母子保健活動を展開するための理論と基礎的な介入方法を学習する。また，離島、僻地地域社会の概念やコミュニティについて理解し、保健・福祉の現状理解を深めて、すべての子どもが健やかに成長することのできる地域社会をめざす母子保健の意義を学習する。関連する法規，政策を学ぶと共に，他職種との連携，協働して母子保健を推進していくことの重要性とその方策について学習する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. やんばるの母子を取り巻く地域社会の特徴を理解する。</li> <li>2. 地域母子保健の概念、僻地、離島地域における母子保健活動の現状を理解する。</li> <li>3. 地域母子保健の概念、地域における母子保健活動の現状と動向について述べるができる。</li> <li>4. 地域母子保健活動の展開方法を理解し、家庭訪問に必要な技術を習得できる。</li> <li>5. 子どもの貧困、障がい児、社会的養護の施設等（乳児院）等についての基礎的な知識、関連する法律を学習すると共に、保健、福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>6. 沖縄やんばるの、離島・僻地の医療および救急医療と母子保健の課題と展望について述べるができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1、2 回 地域母子保健の概念、母子保健行政の実際（各自調査） 地域の子育て環境の実際（各自調査） 救急医療と母子保健（各自調査） 北部地域の乳児健診、家庭訪問の現状（各自調査） 地域母子保健計画の展開＜母子ケアリング実習事前学習＞ 資料からの地域特性、母子保健事業の理解・分析 事前学習資料の作成（島田）</p> <p>第 3、4 回 地域母子保健の現状と課題演習～人口動態統計，母子保健統計，周産期医療体制，医療圏における連携（島田）</p> <p>第 5-6 回 障がい児等について母子に対する社会保障、福祉と医療保険制度（島田） 社会的養護の施設等（乳児院）について</p> <p>第 7-10 回 家庭訪問指導実際、演習 家庭訪問ロールプレイング 1) 計画立案 2) 計画発表 3) ロールプレイングの実際（島田）</p> <p>第 11-12 回 離島地域における母子保健活動（比嘉）</p> <p>第 13-14 回 僻地地域における母子保健活動（田場）国頭村、東村、大宜味村などの比較または、 1ヶ所に焦点をあてて）僻地の医療および救急医療と母子保健の課題</p> <p>第 15 回 地域母子保健のまとめ</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>武谷雄二、前原澄子編助産学講座9地域母子保健第4版、医学書院 2016年 この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
事前学習を行い、授業に臨むこと。						

6 . 成績評価の方法
・レポート(40%) 筆記試験(60%) 合計 100 点
7 . 履修の条件 : 特になし
8 . その他 : 母子ケアリング実習(僻地・離島)に継続する科目である。

授業コード	科目名	助産学実習 I (妊娠期・継続ケース)			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、 小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	研 405・看 2・ 看 19		
1. 授業の概要						
<p>周産期にある母子や家族を対象に、助産過程を通して助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を修得する。妊娠中期から産褥 1 カ月までの母児を受け持ち、継続的に母児の健康診査・保健指導・援助を行う。対象をとりまく環境およびその家族について理解を深め、周産期における助産師の役割について学ぶ。</p> <p>妊娠期各期に必要な診断技術を修得し、妊婦およびその家族に必要な援助や保健指導を展開するための基礎的能力を培う。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の対象である妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、子ども、その家族を身体的・心理的・社会的に統合された全体的な存在として述べることができる。</li> <li>2. 対象となる妊産婦を受け持ち、分娩期、産褥期、新生児、母子訪問時のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。</li> <li>3. 対象となる妊産婦および胎児・新生児の健康状態を査定し、ケアの計画・実施・評価ができる。</li> <li>4. 助産過程の展開により、分娩経過の診断と予測を行うことができる。</li> <li>5. 分娩介助技術、産痛軽減のための技法を安全性・快適性に配慮して実践できる。</li> <li>6. 産科手術の介補、新生児気道確保、異常発生時の判断と臨時応急の手当てなどの専門技術の必要性を述べることができる。</li> <li>7. 母子や家族に対する援助的人間関係を形成できる。</li> <li>8. 妊娠期から育児期における親性の発達過程を理解する。</li> <li>9. 助産実践時に専門職として必要な倫理に配慮して行動できる。</li> <li>10. 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として行動できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・外来実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産科外来にて、妊娠初期から妊娠中期 (15 週から 20 週) の妊婦を 1 名受け持つ。</li> <li>2) 臨床指導者に保健師指導計画を報告し、ケースの面会及び指導を行う。</li> <li>3) 指導は、教師または、臨床指導者立会いのもと実施する。健康診査および保健指導を展開する妊婦の健康状態については事前に情報収集する。</li> <li>4) 保健指導案及び健康診査については、教員や実習指導者から事前・事後ともに速やかに助言・評価を受ける。提出時期や提出方法については担当教員および実習指導者と連絡・調整をする。</li> <li>5) ケースの外来受診日と講義が重なった場合は、講義を優先し、健診後の情報を収集し、助産過程を展開する。</li> <li>6) 妊娠後期では、産科外来にて診察の一部実施、介助、保健指導を行う。健診終了後は記録のまとめを行う。</li> </ol> </li> <li>2. 分娩期：分娩経過の診断を行い、対象者に必要なケアと分娩介助の実施を行う。</li> </ol>						

受持ち事例が帝王切開になった場合は帝王切開前後のケアを指導者と共に行う。妊娠期と同様に、分娩と講義や助産学実習Ⅲ・母子ケアリング実習等が重なった場合は、講義・実習を優先し、分娩後の情報を収集し、助産過程を展開する。

3. 産褥期/継続ケース実習：産褥期の母児の健康診査とケアを実施し、保健指導(母児訪問を含む)を行う。

母子訪問時、母児の健康診査を行い、母子とその家族の発達課題にあわせた援助を行う。

生後1カ月健診時の計画を立案し、担当教員位指導を受ける。

健康診査および保健指導を実施する。

継続ケースとの人間関係を通して、助産師の役割・責任・可能性について考察を深める。

4. 受け持ち選定時の留意事項

1) 妊娠中期から産褥1カ月まで継続して受け持つことが可能な妊婦を継続事例として1名決定する(原則として正期産で正常な分娩経過が見込まれる初産婦を対象とする)。

2) 選定に際しては医療施設の指導者の指示に従う。

3) 感染症(HBV, HCV, HIV, MRSA)を有する対象者は原則として対象から除外する。

\*ATL, GBS, クラミジアは受け持つ場合がある。

5. 実習内容

妊娠期 受持ち後の妊婦健診と保健指導

分娩期 分娩第1期(入院時)から分娩第4期まで

産褥・新生児期 入院期間中の診断とケア

1カ月健診 その他電話訪問・1週間健診等

6. その他

1) 母子健康手帳や出生証明書の記録はしない。ただし、記載内容は確認をする。

2) 妊婦保健指導および分娩介助の自己評価はできる限り当日行い、指導者評価を受ける。

4. テキスト・参考文献

助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016

この他の参考図書は、随時紹介する。

5. 準備学習

コースガイダンス時に資料を配布するので、確認をしておくこと。

授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。

6. 成績評価の方法

実習記録(80%)、実習への取り組み・活動状況(20%) 合計100%

7. 履修の条件

「母子の栄養・薬理学」「周産期医学」「助産過程の展開」「妊娠期の助産診断・技術学」「分娩期の助産診断・技術学」

「産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学」「分娩期助産演習」を履修していること。

8. その他 : 特になし

授業コード	科目名	助産学実習Ⅱ（分娩・産褥・新生児期）			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、 小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
6	1	通年	6	研 405・看 2・ 看 19		
1. 授業の概要						
<p>分娩期実習では、沖縄県内の産科施設において正常分娩を中心としたローリスク産婦の出産に立会う。分娩期においては、分娩第1期～4期まで助産過程の展開をもとに系統的に助産ケアを実践し、1例の継続事例を含む10例の分娩介助を行う。また、産婦との分娩の想起（パースレビュー）を通し、双方にとっての振り返りの意義を学ぶ。さらに、異常分娩時における医師との連携・協働および産婦と家族への精神的支援等、助産師の役割やケアの実際を学ぶ。</p> <p>産褥・新生児期においては、分娩を介助した母子の入院中から1ヶ月健診まで引き続き継続して受け持ち、ケースの産褥・新生児期の経過に合わせて必要な保健指導ならびに助産ケアを実践する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断技術ならびに助産過程をもとに、分娩徴候および分娩開始・分娩進行を判断できる。</li> <li>2. 分娩経過をアセスメントし、正常分娩の介助ができる。</li> <li>3. 安全かつ産婦の満足度を高める助産ケアが実施できる。</li> <li>4. 助産実践におけるPDCAサイクルを意識して自己の関わりを振り返ることができる。</li> <li>5. 分娩期における異常時の医師との連携の実際を見学し、助産師の役割を理解する。</li> <li>6. 分娩経過ならびに産後の経過をふまえ、適切な助産過程をもとに保健指導を含めた産褥・新生児期の助産ケアが実施できる。</li> <li>7. ケースの個別性をふまえた母乳育児支援に必要な知識・技術を修得する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、40歳以下で合併症のない正常な妊娠経過の産婦を、分娩第1期から受け持ち分娩介助を行う。分娩直後～2時間の産婦・新生児のケアまで実施して1例とする。ただし、分娩第1期から担当していた産婦が、結果的に吸引または鉗子分娩になった場合に、1例の介助とするか否かは、その都度状況に応じて判断することとする。</li> <li>2. 担当した産婦の分娩経過において、助産診断をもとに分娩経過を予測し、母児とその家族の心理・社会的側面に関するアセスメントを加え、正常な分娩経過のために必要な助産ケアを実践する。</li> <li>3. 産婦のパースプランを考慮し、対象にとって“安全で満足いく出産“を支援する態度を養う。また、介助した産婦の入院中に分娩の想起（パースレビュー）を実施し、肯定的出産体験と児への愛着形成を支援するとともに、“安全で満足いく妊娠・出産“について考察する。</li> <li>4. 分娩の1例1例を振り返り、自己の関わりや助産実践について内省し知識・技術を積み重ね、助産観を深める機会とする。</li> <li>5. 分娩の間接介助の実施、帝王切開や急迫分娩、産科出血時の対応を見学し、医師との連携および周産期における助産師の役割について理解を深める。</li> </ol>						

<p>6. 以下の点を主軸に分娩期から継続して産褥・新生児期の母子への支援を行う。</p> <p>①母親の進行性変化、退行性変化の促進。</p> <p>②新生児の胎外生活適応ならびに生理的变化の正常化。</p> <p>③母乳育児の確立ならびに母子の愛着形成、親役割獲得への支援。</p> <p>④産後の育児不安、マタニティブルーの軽減</p> <p>7. 母子の個別性やその時々状況に応じた母乳育児支援の実際を見学および一部実施する。</p>
<p>4. テキスト・参考文献</p> <p>助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 日本看護協会出版会</p> <p>分娩介助学 医学書院</p> <p>臨床助産師必携 医学書院</p> <p>病気が見える10「産科」 医学書院</p> <p>胎児心拍数モニタリング講座</p> <p>助産師と研修医のための産科超音波検査</p> <p>標準産婦人科学 第4版 医学書院</p> <p>プリンシプル産婦人科学 1産科編 メディカルビュー社</p> <p>産婦人科診療ガイドライン</p> <p>母乳育児支援スタンダード 医学書院</p> <p>よくわかる母乳育児支援</p> <p>UNICEF/WHO 母乳育児支援ガイド 医学書院</p> <p>母乳育児支援講座 南山堂</p> <p>すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援 医学出版</p>
<p>5. 準備学習</p> <p>特になし</p>
<p>6. 成績評価の方法</p> <p>実習記録、ケースカンファレンス記録、実習評価表の到達度(80%)、 実習への取り組み・活動状況(20%) 合計 100%</p>
<p>7. 履修の条件</p> <p>「助産診断・技術学(分娩期) 同 (産褥・新生児期) 分娩期の助産演習 を履修していること。</p>
<p>8. その他</p> <p>特になし</p>

授業コード	科目名	助産学実習Ⅲ (NICU)			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、 小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	看研8・2・19		
1. 授業の概要						
<p>ハイリスク新生児とその家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を学修する。また、地域社会や医療機関において、助産師と保健・医療・福祉との連携の在り方や協働に向けた調整と管理を行うための方法と実際を理解する。ハイリスク新生児とその家族を支援する専門職としてのあり方を考察する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイリスク児の身体的・心理社会的な成長・発達の特徴や病態を理解する。</li> <li>2. 母親の妊娠経過や分娩経過と出生時の状態、および出生後の経過と治療を関連付けて理解する。</li> <li>3. ハイリスク児の特性や個別性を考慮したケアを立案し、指導のもと一部実施し、その結果を評価することができる。</li> <li>4. NICUの物的・人的環境について理解し、NICUにおけるケアの特殊性について考えられる。</li> <li>5. ハイリスク児と母親への母乳育児支援の実際を学び、その意義を考えられる。</li> <li>6. ハイリスク児をもつ親や家族を全人的に捉え、施設で行われているケアの実際を通して、family centered care (FCC) の概念を理解する。</li> <li>7. ハイリスク児とその家族を支援するために、保健・医療・福祉の専門職との協働の重要性を認識し看護職（助産師）の役割について考察する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>5日間の実習期間（水曜日は学内日とする）を通して、入院中のハイリスク児とその家族を受け持ち、実習指導者の指導のもと助産過程を実践する。対象は、重篤な合併症がなく急性期を脱して全身状態の比較的安定した児とする。具体的なケア内容は、バイタルサインの測定、全身観察、環境整備、清潔ケア、授乳、母乳育児支援、アタッチメント形成に向けての支援などで、母子の状況に応じ、指導者の指導のもと可能な範囲で実施または見学する。</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>NICU マニュアル 第5版 新生児医療連絡会 金原出版 ネオネイタルケア（メディカ出版）の特集や増刊号 等</p>						
5. 準備学習						
<p>授業の計画と内容に沿って、上記文献を活用し予習をしておくこと。</p>						
6. 成績評価の方法						
<p>記録物（内容・提出期限）、ケースレポート（70%） 実習への取り組み・活動状況(30%)</p> <p style="text-align: right;">合計 100点</p>						
7. 履修の条件						
<p>「新生児・乳児学」「助産過程の展開」「産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学」を履修していること。</p>						
8. その他 : 特になし						



授業コード	科目名	助産管理学実習			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、 小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	405・2・19		
1. 授業の概要						
本実習では、施設における助産業務の管理、助産院の運営、及び開業助産師の活動の実際を見学及び参加することを通して、助産活動のあり方、技術、態度を修得する。						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における助産師活動の実際を理解する。</li> <li>2. 助産所の運営と管理、他職種と連携の実際を学び、助産所における助産管理の特徴を理解する。</li> <li>3. 地域の周産期管理システムと連携方法を述べるができる。</li> <li>4. リスクマネジメント、危機管理のあり方を考えることができる。</li> <li>5. 地域における母子支援活動の実際および課題を考察できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>各実習施設に出向き、目標達成のために自ら進んで実習に取り組む。</p> <p>各実習場所における到達目標は、事前のオリエンテーション時に担当教員の助言のもと準備をする。</p> <p>保健センターの実習は土曜日（乳児健診の見学及び一部実施）に行く。その際には、健康状態に十分配慮し、休憩時間や代休日を確保する。</p> <p>保健センター（1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児健診の見学と一部実施を行う。</li> </ul> <p>助産所（4日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産所における助産管理・運営・経営の実際について説明を受け、実際の活動を見学する。</li> <li>・開業助産師の地域での活動を見学する。見学の内容は訪問業務（新生児，妊婦，褥婦）集団活動（育児サークル、各種学級など）乳房管理など。可能なケアを実施する。</li> </ul>						
4. テキスト・参考文献						
<p>助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016</p> <p>この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
<p>コースガイダンス時に資料を配布するので、確認しておくこと。</p> <p>授業の計画と内容に沿って、予習しておくこと。</p>						
6. 成績評価の方法						
<p>レポート(60点) 実習記録、実習評価表の到達度、実習への取り組み・活動状況(40%)</p> <p style="text-align: right;">合計 100%</p>						
7. 履修の条件						
<p>「助産学概論」「助産ケアと倫理」「沖縄のケアリング文化と女性」「助産管理学」を履修していること。</p>						
8. その他 : 特になし						

授業コード	科目名	母子ケアリング実習（僻地・離島）			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、小柳弘恵
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	405・2・19	月5限 水1限	
1．授業の概要						
<p>実習を通して、沖縄の歴史や文化を継承しながら生活する人、地域の絆やケアリング文化を理解する。沖縄の離島・僻地の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、妊産褥婦や女性とその家族の健康支援体制、関係機関との連携・協働体制、母子保健・福祉・医療・看護活動を学習する。</p> <p>また、子育て家庭を支える福祉に関する施策や社会資源を理解するとともに、地域の保育や子育て支援に関する社会資源の整備状況等を理解する。</p> <p>助産師の役割は何かを学び、今後の助産のあり方や助産師の役割について理解を深める。</p>						
2．到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．離島・僻地の地理的、社会的環境について理解する。</li> <li>2．離島・僻地で生活する人々の健康ニーズについて理解する。</li> <li>3．個々の健康ニーズに対して、地域の特性を活かした母子保健、看護活動の展開方法を理解する。</li> <li>4．離島・僻地における関連諸機関との現状と連携を知り、母子保健の現状課題を述べることができる。</li> <li>5．わが国のへき地医療のあり方と看護専門職が果たす役割について考察できる。</li> <li>6．児童福祉施設等と専門職の役割について理解する。</li> <li>7．児童福祉施設等の種類とその概要及び児童福祉施設等の利用の仕組みについて理解する。</li> <li>8．福祉の現状と子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について述べることができる。</li> </ol>						
3．授業計画と内容						
<p>実習</p> <p>1日：乳児院での実習</p> <p>2日：僻地医療の実際（国頭村）</p> <p>3日：伊江島の地区踏査、生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際</p> <p>4日：伊平屋の地区踏査、生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際（泊） または伊是名村の地区踏査、生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際（泊）</p> <p>5日：実習のまとめ</p>						
4．テキスト・参考文献						
<p>助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016</p> <p>この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5．準備学習						
事前学習を行い参加すること						
6．成績評価の方法						
レポート（60％） 実習記録、実習評価表の到達度、実習への取り組み・活動状況（40％） 合計 100%						
7．履修の条件						
「沖縄のケアリング文化と女性」「リプロダクティブヘルス支援」「やんばるの母子保健」を履修していること。						
8．その他						